

地域共生ハッカソン

「地域共生ハッカソン」は、専門分野の異なる大学・専門学校の学生が混成チームを組み、地域共生につながる各テーマについて意見やアイデアを出し合いながら、テクノロジーを活用した様々な課題解決を目指す取組です。学生の柔軟な発想により社会課題・地域課題の解決を目指すことに加え、期間を定めたプロジェクトを多様な主体と協力しながら進めていく経験を通じて、学生自身のスキルアップやキャリア形成につなげることを目的としています。



令和7年度取組概要

令和7年10月から令和8年2月までの約5か月間にわたり、「ヤングケアラー支援」「身体活動の促進」「インクルーシブ」「高齢者の健康維持・推進」の4つのテーマに取り組みました。

参加主体のご紹介

横浜薬科大学、桐蔭横浜大学、学校法人岩崎学園 横浜保育福祉専門学校、学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校、学校法人岩崎学園 情報科学専門学校の5校の学生が参加し、テーマに基づいて4つの混成チームを編成して活動を行います。各校から1名ずつアドバイザーの先生方をお迎えし、学生の皆さまにアドバイスをいただきます。

また、昨年度に引き続き、富士ソフト株式会社様にご協力いただくほか、今年度からは新たに、さまざまな企業・団体が垣根を超えてオープンに交流しながら、「誰でもカンタンにIoTを使える世界」を目指す一般社団法人iLinkオープンコミュニティ様にもご参画いただき、学生の皆さまの活動をご支援いただきます。



テーマのご紹介

今年度、各先生方からいただいたテーマをご紹介します。
 これらのテーマに沿って学校混成のチームを編成し、課題解決を目指していきます。

ヤングケアラー支援

中学生の17人、高校生の24人に1人がヤングケアラー。自覚なく家事・介護に追われ学業に影響も。支援は進む一方、早期発見と相談の仕組みには課題が残ります。学生の発想でSNSやアプリ、地域資源を活用し、寄り添う仕組みを一緒に考えませんか？

横浜薬科大学
田口 真穂 先生

身体活動の促進

身体活動の不足と座位時間の増加は現代の深刻な健康課題です。健康行動を促すには、個々の意思や生活習慣だけでなく、地域社会における環境的要因の影響も大きいとされています。誰もが自然に“動きたくなる”“座りすぎない”社会の実現に向けた仕組みやサービスが必要です。

桐蔭横浜大学
尾山 裕介 先生

インクルーシブ

ICT機器の機能を基に幼児・児童の『発達』を促す『もの』、教育現場における幅広い世代の『感性』を刺激し活性化する『もの』を、様々な視点をふまえて新たに考えていきましょう。また昨年度開発された〈あそぼーる〉における、福祉分野への活用も目指していきたいと思っています。

横浜保育福祉専門学校
遠山 真美子 先生

高齢者の健康維持・増進

高齢者の健康維持・増進に向けては、日々の健康状態を把握することが重要ですが、年齢を重ねるにつれて適切な対応が難しくなることがあります。また、独居高齢者の増加等を要因に、地域や家族とのつながりが希薄になる傾向も見られます。こうした課題がある中で、高齢者が安心して日々を過ごせるようになるためには、どのような支援が必要でしょうか？

横浜リハビリテーション専門学校
水島 真由美 先生

令和7年度地域共生ハッカソンの結果

2月8日 成果発表会を開催しました！

令和7年度地域共生ハッカソン 成果発表会ダイジェスト

横浜市共創チャンネル



見る

ハッカソンの取組の集大成となる成果発表会を、横浜市役所にて開催しました。
約5か月間、試行錯誤しながら積み重ねてきた取組の成果を、どのチームも存分に発揮していただきました。
厳正なる審査の結果、最終結果は以下の通りとなりました。



インクルーシブチーム

獲得点数が最も高かったチーム



ヤングケアラー支援チーム

主に着眼点・アイデアが秀でていたチーム



高齢者の健康維持・増進チーム

主に技術・完成度が秀でていたチーム



身体活動の促進チーム

主に実現可能性がしっかりと考慮されていたチーム



各チームの発表内容

インクルーシブチーム



保育現場において、特別な支援を必要とするこどもが集中しづらいという課題に着目し、自分で描いた絵がキャラクターとして動くゲーム「どろすび」を開発しました。

Webアプリと小型デバイスを組み合わせることで描いた絵を操作できる仕組みをつくり、障がいの有無にかかわらず一緒に楽しめる遊びの場の実現を目指しました。

成果物



チームの仲間と協力してアイデアを形にし、実践まで進めることができました。発表も含めて良い作品に仕上がったと思います。

情報科学専門学校 梅田さん

[インクルーシブチーム発表資料 \(PDF: 6.360KB\)](#)

ヤングケアラー支援チーム



家族のケアや家事を担う中高生が相談や支援につながりにくい現状に向き合い、Webサイト「YC-Conet」を開発しました。

自分の状況を可視化する「がんばり度チェック」、同じ境遇の仲間やサポーターとつながれる掲示板・チャット、学生サポーターとのマッチングシステムなど、相談をためらう気持ちに寄り添う段階的な仕組みを整えました。

成果物



ビジョナリー賞をいただけたことを嬉しく思います。ヤングケアラーという難しい課題に対し、深く考える経験ができて良かったです。

横浜薬科大学 菅原さん

[ヤングケアラー支援チーム発表資料 \(PDF: 2,860KB\)](#)

高齢者の健康維持・増進チーム



外出機会の減少や交流不足といった高齢者の課題を踏まえ、LINEを活用した、交流と運動を促すサービスを開発しました。

主な対象である60代の方が使いやすいよう操作性を工夫し、イベント検索から予約までをLINE上で完結できるようにすることで、地域活動への参加をきっかけに、外出機会の増加や健康増進につなげることを目指しました。

成果物



学校が異なるメンバー同士での情報共有や日程調整に苦労する場面もありましたが、最後まで取り組んだ結果、フロンティア賞をいただけて嬉しく思います。

情報科学専門学校 手塚さん

[高齢者の健康維持・増進チーム発表資料 \(PDF: 1,722KB\)](#)

身体活動の促進チーム



働き盛り世代の運動不足に着目し、日常生活の活動をポイント化して可視化するWebサービスを開発しました。

家事や通勤などの活動も記録でき、目標設定や達成状況、ランキング機能などを通じて、「少し体を動かしてみる」行動につながる仕組みを整えるとともに、アンケート結果を踏まえて改善点や今後の展望も整理しました。

成果物



実現可能性の高さを評価いただき、とても嬉しく思います。学生の目線から社会課題を考える経験は初めてでしたが、非常に有意義で楽しい時間になりました。

横浜薬科大学 村瀬さん

[身体活動の促進チーム発表資料 \(PDF: 2,237KB\)](#)

Ⅰ アドバイザーの先生方からのコメント

令和7年度地域共生ハッカソンでは、活動期間を通じて5名の先生方にアドバイザーとしてご協力いただきました。ハッカソン終了後にいただいたコメントをご紹介します。

横浜薬科大学

田口 真穂 先生

ヤングケアラー支援チーム
メディカルアドバイザー



ヤングケアラー支援という困難な課題に対して、ヒアリングや調査、議論を重ねて「支援システムYC-Conet」を制作しました。学生ならではの視点で、デリケートな気づきの部分や多様性にまで配慮されており、今後実装を通じてブラッシュアップすることで、まだ手の届かない子どもたちを地域で連携してサポートできるのではないかと期待しています。

桐蔭横浜大学

尾山 裕介 先生

身体活動の促進チーム
フィジカルアドバイザー



限られた時間の中で、自分たちのアイデアをWebサイトやアプリ作成といった社会実装まで具体化した実行力は素晴らしいです。特に、働き盛り世代をターゲットに、実際のヒアリングで得られた課題に基づいている点は高く評価できます。また、チームで協働することの重要性や難しさにも直面したことと思いますが、その経験を今後活かしてもらえると嬉しいです。

横浜保育福祉専門学校

遠山 真美子 先生

インクルーシブチーム
チャイルドケアアドバイザー



インクルーシブチームメンバーの皆さん、政策経営局長賞の受賞、改めておめでとうございます！各メンバーが学業や就職活動の多忙な時期に、時間を合わせながら1つ1つの課題をクリアし、オリジナルのアイデアを咲かせていく姿は圧巻でした。このチームのアドバイザーができたことを、本当に誇らしく思います。ありがとうございました！

横浜リハビリテーション専門学校

水島 真由美 先生

高齢者の健康維持・増進チーム
リハビリテーションアドバイザー



ハッカソンの活動、本当にお疲れ様でした！皆さんが定年退職後対象者の「したい！」に深く寄り添い、LINEを活用したアプリの開発に伴走でき、私も多くの刺激をもらいました。人の心と生活を起点にした素晴らしいアイデアだったと思います。この経験と皆さんの高い共感力を糧に、これからのさらなる飛躍を期待しています。応援しています！

情報科学専門学校

武藤 幸一 先生

テクニカルアドバイザー



今年度は多くのチームで開発にAIを活用し、短期間で高品質な制作物が作り出されたと感じています。その分、当事者が抱える課題の深掘りに時間をかけ、開発メンバーも一丸となって当事者目線での取り組みができたのではないのでしょうか。本ハッカソンで得た経験を活かし、AI時代で活躍できるエンジニアを目指して下さい！

Ⅰ ハッカソンにご協力いただいた企業のご紹介

令和7年度地域共生ハッカソンでは、活動期間を通じて次の企業様にご協力いただき、学生の皆さまの取組をサポートいただきました。

一般社団法人ifLinkオープンコミュニティ 様



IoTの民主化を目指して事業・技術・人財の共創コミュニティを運営する団体として、キックオフ・中間発表会では、ハッカソンの意義や企業側からの期待について講演いただき、成果発表会では審査員として協力いただきました。

また、ハッカソンの活動を会員に広く周知いただくとともに、会員企業である古河電気工業株式会社様をご紹介いただき、技術的助言の機会をご提供いただきました。



課題を見つけ、仲間とアイデアを出し合い、形にして伝えるまでの一連の流れを短期間で経験できたことは大きな財産になると思います。AIが進化しても、人の感情に寄り添う力や熱量、協働して楽しむ力は人にしか出せません。この経験を大切に、今後の挑戦につなげていってほしいです。

一般社団法人ifLinkオープンコミュニティ 理事・事務局長 千葉 恭平 様

富士ソフト株式会社 様



ソフトウェア開発やシステムインテグレーションを手掛けるIT企業として、キックオフ及び中間発表会においてチーム運営、コミュニケーション、納期を意識した活動の進め方などについて、アドバイスをいただきました。

成果発表会では審査員として協力いただき、実務的な観点から参加チームの取組を講評いただきました。



キックオフから悩みながら形にしていくプロセスが本当に素晴らしかったです。成果物だけでなく、どう考え、どのように貢献したかという過程を振り返ることは、社会人として仕事をするうえでも大切な力になりますので、ぜひ今後も意識してほしいと思います。

富士ソフト株式会社 技術管理統括部 生成AI部 茂木 淳一 様

成果発表会までの経過

いよいよ令和7年度の地域共生ハッカソンが始まりました！

このページでは、キックオフから成果発表会までの約5か月間にわたり、学生の皆さまの取組の様子を定期的に発信してまいります。ぜひご覧ください！



共創推進課 住谷担当

10月16日 キックオフを開催しました！

■ キックオフの様子

令和7年度地域共生ハッカソンの幕開けとなるキックオフを開催しました！

会場は岩崎学園情報科学専門学校様にご提供いただき、約50名の学生が参加。テーマごとに混成チームを構成し、いよいよ活動がスタートしました！

前半の基調講演では、一般社団法人ifLinkオープンコミュニティの千葉様より、ハッカソンの意義や魅力について事例を交えてご紹介いただきました。続いて、富士ソフト株式会社の茂木様からは、チーム運営やコミュニケーションのポイントについて、実践的なアドバイスをいただきました。

後半のアイデアソンでは、アドバイザーの先生方による課題提起を受け、学生の皆さまが地域課題を深く掘り下げながらアイデアを出し合い、今後の活動の方向性について熱く議論を交わしました。

当日は限られた時間の中で議論が大いに盛り上がり、各チームとも話し足りない様子も見られました。それだけに、これからの活動を通じてどんなアイデアが育っていくのか、ますます期待が高まります！



■ 各チームの議論の様子

A. ヤングケアラー支援



ヤングケアラーの支援情報の周知不足に着目し、当事者や周辺の実態把握から、情報導線の設計に取り組むことを検討しました。

B. 身体活動の促進



運動不足解消に向け、ITやゲームを用いるなどの工夫から、日常生活に運動を溶け込ませることを検討しました。

C. インクルーシブ



こどもやお年寄りの事故低減・健康増進を目指し、音声ガイドや振動通知など多様なニーズに応じた散歩アプリを検討しました。

D. 高齢者の健康維持・増進



運動不足や意欲低下などを整理し、地域拠点でのスマホ講座や若者との交流、服薬リマインドなどを検討しました。

12月15日 中間発表会を開催しました！



■ 中間発表会の様子



10月のキックオフから約2か月間、各チームは地域課題を丁寧に深掘りし、解決に向けたアイデアを検討してきました。中間発表会では、これまでの議論や調査結果をもとに、今後どのような狙いでモノやサービスを形にしていくのかを共有しました。

発表後、アドバイザーの先生方をはじめ、富士ソフト株式会社の茂木様、一般社団法人ifLinkオープンコミュニティの千葉様、保土ヶ谷区福祉保健センターなど、多方面から貴重なコメントやアドバイスをいただきました。会の後半では、中間発表の内容やフィードバックをもとに各チームでディスカッションを行い、成果発表会に向けた方針を整理しました。

いよいよ活動も折り返しです！各チームともに2月の成果発表会に向けて、さらにブラッシュアップを進めていきます！

Ⅰ 各チームの発表の様子

A. ヤングケアラー支援



ヤングケアラーの孤立や相談のしづらさに着目し、仲間や学生サポーターと繋がるWebプラットフォームの開発を目指しています。

B. 身体活動の促進



働き盛り世代の運動不足、座りすぎによる健康課題に着目し、運動の促進・継続を促すWebアプリの開発を目指しています。

C. インクルーシブ



自閉症を抱えることが集団遊びに参加しづらいことに着目し、自分の描いた絵を動かせるゲームの開発を目指しています。

D. 高齢者の健康維持・増進



高齢者の孤独感、運動不足、若者との交流機会の減少に着目し、LINEと連携可能な運動・交流支援アプリの開発を目指しています。

令和6年度取組

[令和6年度取組はコチラ \(PDF: 3,226KB\)](#)

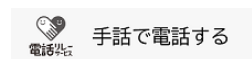
主催

横浜市 行財政局共創推進課

このページへのお問合せ

行財政局共創・ファシリティマネジメント推進室共創推進課
電話：045-671-4391 ファクス：045-664-3501
メールアドレス：g2-kyoso@city.yokohama.lg.jp

開庁時間：月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時15分まで
（祝日・休日・12月29日から1月3日を除く）
※一部の窓口では開庁時間が異なる場合があります



Copyright © City of Yokohama. All rights reserved.